

**原子力安全改革プランの進捗等に関する監視結果について**  
**～原子力改革監視委員会から東京電力ホールディングス取締役会への答申～**

当委員会は、本日開催した第15回原子力改革監視委員会において、東京電力ホールディングスから、原子力安全改革の進捗、特に当委員会が示した重点課題に対する改善状況の自己評価について報告を受けた。

原子力安全改革重点課題に対する自己評価

- 当委員会は、東京電力ホールディングスの自己評価に対するレビューを継続的に実施し、助言を行い、2017年1月のレビューにおいて、一定の改革の進捗を評価し、2017年11月には更なる改善に向けて以下の「5つの重点課題」について、改善状況の自己評価を行って結果について報告するよう求めた。
  1. 組織・ガバナンスの強化
  2. 人材育成の強化
  3. コミュニケーションの改善
  4. 原子力安全文化の醸成
  5. 内部監視機能の向上
- 自己評価の結果として、組織・ガバナンスにおいては組織活動の基本方針を文書化し、リーダーによる説明が定例化、「年度業務計画」の実施状況を経営層が確認・改善指示していること、人材育成の面では設計管理・構成管理エンジニアの包括的な育成プログラムの策定は遅延しているものの、教育訓練プログラム改善のために、SAT (System Approach for Training) の運用を開始していること、効果的なコミュニケーション体制構築のための組織改編や訓練の実施、協力企業と一体となった安全文化の醸成活動が行われていること、内部監視機能においては、推奨事項通知書の発行、フォローアップシートによる監視、監視員の教育訓練等を実施していることの報告を受けた。
- また「原子力安全アドバイザーリーボード」が、福島第二、柏崎刈羽原子力発電所、原子力・立地本部に対してレビュー活動を実施し、安全性や組織の有効性を向上させるための方策に取り組んでいることの報告を受けた。なお、同ボードは今後もレ

ビュー活動を実施する予定であり、当委員会としてもその結果を注視している。

#### 柏崎刈羽原子力発電所の広報・広聴活動と福島第一廃炉作業の進捗

- 柏崎刈羽原子力発電所の広報・広聴活動では、「まもる・そなえる・こたえるオフィス（MSK オフィス）」を立ち上げる等、地元に着した広報・広聴活動が実施されているとの報告を受けた。
- 福島第一廃炉事業では、廃炉・汚染水対策の進捗の報告を受けた。燃料取り出し作業の遅延や多核種除去設備等処理水の問題において社内外のコミュニケーション不足や社外目線の浸透が不十分な事例が報告された。安全を最優先に運営した上で、社会目線、特に地元関係者からの視点を重視した正確でわかりやすく、かつ、タイムリーな情報発信に取り組むよう求めたい。

#### 結語

- 今回、東京電力ホールディングスから、重点課題の対応状況への自己評価の結果及び組織・ガバナンスの強化、人材育成の強化、コミュニケーションの改善、原子力安全文化の醸成、内部監視機能の向上に向けてアクションが取られているとの報告を受けた。当委員会は、次回までに自己評価の結果についてレビューを行うこととしている。
- 自己評価のレビューを行うに当たっては、柏崎刈羽の安全対策工事や福島第一廃炉作業の状況を確認するとともに、原子力リーダーなどへのインタビューを通じて、組織長としてのビジョン、現在抱えている課題を把握していく。
- 当委員会は、自己評価を定着させることは、自ら改善し、学ぶ組織文化を組織全体へ浸透させる上できわめて重要と考えており、東京電力ホールディングスに対して、持続的、自立的な自己評価が定着する仕組みを構築し、定期的実施し委員会へ報告することを求めたい。

以 上